

肢体不自由教育部門中学部全学年 II 課程 国語科学習指導案

日時	令和2年 *月 *日 *曜日 10:50～11:40	場所	**学習室
指導者	町田 裕紀 (T1) ** ** (T2) ** ** (T3)		
単元名	「なぞなぞゲームをしよう」		
本単元で育成する資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な国語の知識を身に付けることができる。(知識及び技能) &lt;中学部1段階&gt;</li> <li>・順序立てて考える力や想像する力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えをもつことができる。(思考力・判断力・表現力) &lt;中学部1段階&gt;</li> <li>・言葉がもつよさに気付き、国語で考えたり伝え合ったりしようとする。(学びに向かう力・人間性) &lt;中学部1段階&gt;</li> </ul>		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解している。</li> <li>・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めている。</li> <li>・分かったことを伝え合い、考えを持っている。</li> <li>・文章を読んで分かったことを伝えている。</li> <li>・語や語句の意味を基に、内容の大体を捉えている。</li> <li>・見たことや経験したことから、伝えたい事柄を選び、書く内容をまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わる言い方で、自分の考えを表現しようとしている。</li> </ul>
単元設定の理由	<p>本グループは、肢体不自由教育部門II課程に所属する、1年生3名、2年生2名、3年生1名の計6名で構成されている。いずれの生徒も日常生活に必要な語彙を獲得しており、事物や絵カードからその名称を答えることができる。ひらがなとカタカナを読むことができ、3文から4文程度の短い文なら一人で読むことができるが、物語文や説明文などの長い文になると、内容を整理することが難しくなるため、教師の支援が必要となる。日常生活の中での会話は、他者との意思の疎通を図ることはできるが、正しい文法で話すことや、相手に伝わるように内容を整理して話すことに課題がある。また、本グループは、保有している語彙数や、文章構成能力、コミュニケーション能力において、個人差が大きい。そのため、個人の目標や使用する教材は個々の実態に応じて設定している。また、話し合い活動などにおけるグループ編成は、個々の言語能力やコミュニケーション能力を踏まえて編成している。</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説各教科編第2章第5節中学部1段階の国語科の指導においては、生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉で様々な情報を得る経験や自分の考えをまとめたり相手に分かりやすく伝えたりする経験を積み重ねることを通して、日常生活や社会生活に必要な国語を身に付けることを重視している。本単元では、生徒たちの身近にある事物が答えとなるなぞなぞ作りを行う。なぞなぞを作るためには、色や形などの見た目を正しく把握することや食べ物なのか、飲み物なのか、道具なのかといった、カテゴリーを正しく読み取ることが必要となる。また、なぞなぞの問題文を作るには、適切に読み取った情報を整理し、相手に伝わるように、正しい文法で文章を構成する力が必要となる。本単元の学習を通して、相手に伝わりやすいように、文章を構成する力を養い、コミュニケーション能力の向上に結び付けたい。</p> <p>指導に当たっては、なぞなぞの問題文を読み、何について説明している文なのかを考え、答えるという、なぞなぞの基本的な遊び方を学習することから始める。そして、問題文には、どのようなことが書かれているのかを読み取る。例えば、事物の色が書かれているのか、形が書かれて</p>		

<p>いるのかという見た目についての情報や、その事物が動物なのか食べ物なのかどうか、事物のカテゴリーについての情報が入っている文など、問題文はどのような情報を組み合わせて作られているのかを考える。その学習を基に、次に生徒がなぞなぞの問題文を作成する学習を行う。学習においては、書く情報を、「かたち」「いろ」「なにのなにかま?」「どうやってつかう(たべる)もの?」のように絞り、何を書けば良いのかを考えやすくする。また、文章を構成する学習では、名詞カードと、助詞を接着剤カードとして準備して、助詞の使い方を学習し、正しい文法で文章を構成できるようにする。カードはパズルのピースのように、名詞カードと接着剤カードの端を合う形に切り、視覚的にも正解不正解が分かるような教材を用いる。そして学習のまとめとして、なぞなぞ大会を開催する。クイズ大会では、6人の生徒たちを2つのグループに分け、対戦方式で活動を行う。なぞなぞ大会本番での活動を通して、同じグループの生徒同士で、どうしてそのような答えになると思ったのかを話し合い、理由を交えて説明するなど、協力してゲームに取り組む場面を増やしていきたい。また、書字や意思の表出が困難な生徒に対しては、タブレット端末の文字入力機能を使用するなどの工夫を図りながら指導を進めたい。</p>				
<p>単元の指導計画 (11時間扱い) 本時は第8時</p>	次	時	学習内容・活動	評価規準・評価方法
	1 「なぞなぞについて知ろう。」	1 「なぞなぞに挑戦しよう。」	教師に出題されたなぞなぞを解き、遊び方を学習する。	
		2 「なぞなぞの問題文を読もう。」	なぞなぞの問題には、どのような情報が書かれているのかを読み取る。	なぞなぞの問題文を読み、どんな情報が書かれているのかを、ワークシートに記入している。(思考・判断・表現) [発表・ワークシート]
		3 「身の回りの物について説明しよう。」	生徒が日常生活で使う機会の多い物を、言葉で説明する。	身の回りにある物の見た目や、使い方などの特徴を読み取り、ワークシートに記入している。  (知識・技能) [発表・ワークシート]
		4 「問題文を書こう。」	前回考えた説明文を、なぞなぞの問題文に書き直す。	前回のワークシートの中から、使いたい情報を選び、なぞなぞの問題文を作っている。  (知識・技能) [ワークシート]
		5 「先生に挑戦しよう。」	前時で生徒たちが作ったなぞなぞの問題を、教師に出題する。	なぜその答えになるのかを、情報を整理して、解答者に説明している。  (思考・判断・表現) [発表・観察]
	2 「なぞなぞ大会を開こう。」	6 「大会でどんな問題を作るのか話し合おう。」	何が答えになる問題を作るのか、グループに分かれて話し合う。	何についての問題を作りたいのか、同じグループの友達に伝えている。  (思考・判断・表現) [発表]
		7・8(本時) 「大会で出題する問題文を作ろう。」	なぞなぞ大会で出題する問題を作成する。	身の回りにある物の特徴を捉え、正しい文法で、なぞなぞの問題文を作っている。  (思考・判断・表現) [ワークシート]
		9・10 「なぞなぞ大会を開こう。」	生徒たちを2つのグループに分け、なぞなぞ大会を行う。	問題文から、正しい答えを考え、解答している。  (思考・判断・表現) [発表]
		11 「なぞなぞ大会の振り返りをしよう。」	前時実施したなぞなぞ大会の様子を振り返り、感想を発表する。	なぞなぞ大会の感想や、頑張ったことを伝えようとしている。  (主体的に学習に取り組む態度) [発表]

[本時の指導]

1 本時の目標

- ・身の回りにある物の特徴を捉え、正しい文法でなぞなぞの問題文を作ることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

2 生徒の実態及び個別目標

児童 学年 (性別)	生徒の実態	個別目標	自立活動の 目標
A *年	<p>小学校3年生程度の漢字の読み書きは可能である。国語☆☆☆☆の説明文の内容であればスムーズに読むことができ、読み取った内容を発表することができる。しかし、自分の考えまとめたり、発表したりすることには消極的である。</p>	<p>身の回りにある物の特徴を書き出し、挙げた特徴を整理して、難易度の異なるなぞなぞの問題文を書くことができる。(思考・判断・表現) 〔評価方法〕</p>	
B *年	<p>最近の出来事を5W1Hに沿って発表することができる。小学校2年生程度の漢字が入った短い文章を読み、大まかな内容を読み取ることができる。書字は手首の固さや体幹を長時間保持していることが難しいことから、時間がかかる。また、2cm四方以下のマスに書くことが難しい。話を聞き終わる前に話の中の知っていることや興味のあることに対し、話し始めてしまうことがある。左側が見えにくい。</p>	<p>身の回りにある物の特徴を書き出し、挙げた特徴を整理して、なぞなぞの問題文を書くことができる。(思考・判断・表現)〔評価方法〕</p>	
C *年	<p>ひらがなでの読み書きは可能。テレビの内容や最近の出来事を友達と話したりすることができる。物の名称など語彙は多いが、分類わけが難しい。考えたことを発表するまでに時間がかかる。</p>	<p>身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作ることができる。(思考・判断・表現等) 〔評価方法〕</p>	
D *年	<p>気管切開のため会話ができず、聴覚障害がある。簡単な文での筆談ができ、タブレット端末に文字を書いたり、トーキングエイドを使用したりしてやり取りをすることができる。平仮名と曜日や漢数字等の簡単な漢字は読むことができる。</p>	<p>身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作ることができる。(思考・判断・表現)〔評価方法〕</p>	
E *年	<p>小学校1・2年生程度の漢字の読み書きができる。また、漢字の混じった簡単な文章を読み、意味を読み取ることができる。自分の興味のあることや、最近の出来事などを積極的に教師に話すことができるが、自分の伝えたい事を言葉にできず、うまく伝わらないことがある。</p>	<p>身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作ることができる。(思考・判断・表現)〔評価方法〕</p>	

F *年	写真や絵カードから、事物の名前や色等の見た目の特徴を答えることができる。文字を書く際は、マスを準備することで、大きさをそろえて書くことができる。しかし、自分で書く内容を考えることは難しい。	身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、助詞を正しく使って、問題文を作ることができる。(思考・判断・表現) [評価方法]	
---------	--	---	--

### 3 展開

※形態の表記は 全体：全，グループ：グ，個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む
全 10	1 始めのあいさつをする。 2 本時の学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             今日の内容              ① 目標の確認              ② グループで話し合おう              ③ なぞなぞを作ろう              ④ 友達の問題を解いてみよう              ⑤ ふりかえり           </div> 3 前時の内容を振り返る。 4 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             グループに分かれて問題を作ろう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1は、あいさつをする生徒を指名する。</li> <li>・ T1は、本時の流れを板書し、授業の内容を説明する。</li> <li>・ T1は、前時で使用した教材やワークシートを示しながら、内容の復習を行う。</li> <li>・ T1は、本時の課題を板書し、生徒に示す。</li> <li>・ 課題を確認後、T1はクイズ大会のグループに分かれるよう、生徒たちに伝える。</li> </ul>
グ 10	5 誰がどの問題を作るのか、役割を分担する。 (1) お題の一覧表を見て、何について問題を作りたいのか考える。 (2) 作りたい物を一覧表から選び、丸をつける。 (3) グループの友達に、自分が何を選んだのか、発表する。 (4) 作りたい物が重なった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T2はA・B・Cを、T1はE・FをT3はDを担当する。</li> <li>・ T3は、T1やT2、他の生徒たちの発言をタブレット端末に入力し、Dに伝える。</li> <li>・ T1は、話し合いの約束が書かれたカードを、ホワイトボードに貼る。</li> <li>・ T1とT2は、問題文づくりのイメージを持ちやすくするために、それぞれのグループに絵カードを配る。</li> <li>・ T1とT2は、イラストの一覧表を生徒に配る。</li> <li>・ T1、T2、T3は、作りたい物が決められない生徒に対し、「どれが問題を作りやすい？」といった言葉掛けや、選択肢を絞って提示するなど、選びやすいように支援する。</li> </ul>

<p>個 20</p>	<p>ら、どうやって決めるのかを話し合う。</p> <p>6 ワークシートをまとめる (1) 1つのお題に対し、3つの問題文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 と T2 は、話し合い活動における司会進行役に、B と E を指名する。</li> <li>・ T1, T2, T3 は、話し合いが進められていない時には、意見を発表できるよう、「思ったことを伝えてください」「何を作りたいのか言ってみたら？」など、発表を促す言葉掛けを行う。</li> <li>・ T1 は、E がうまく自分の考えを伝えられない時には、「まず何かから伝える？」など、話す順番を整理できるように言葉掛けする。</li> <li>・ T1 は、F が話し合いに参加できるよう、伝えたいことを一緒に考え、発表するようにする。</li> <li>・ T1 は、F が話し合いに参加できない時には、D・E に対し、F の意見も聞くように言葉掛けする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートは、事前にタブレット端末に保存して、授業で活用する。</li> <li>・ 生徒たちは、タブレット端末のキーボードを使って入力する。</li> <li>・ T1 と T2 は、タブレット端末にうまく入力できない生徒に対し、手添えや押すキーを指差すといった支援を行う。</li> <li>・ T1 と T2 は、「どんな形？」「どんな色？」「どこでよく見る？」など、10 個ほどのヒントが書かれた「お助けシート」を配る。</li> <li>・ T1, T2, T3 は、生徒たちが何を書けばいいのか分からない時には、生徒ができるだけ自力で問題文を作れるよう、お助けシートを見るように言葉掛けする。</li> <li>・ T1 と T2 は、生徒が問題文を作れない時には、「どんな見た目かな？」「どこで見たことある？」などの言葉掛けをする。</li> <li>・ T3 は、T1 の言葉掛けを D のタブレット端末に入力して伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A 身の回りにある物の特徴を書き出し、挙げた特徴を整理して、難易度の異なるなぞなぞの問題文を書いている。 (思考・判断・表現) [ワークシート]</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A は、保有する語彙数や、文章を構成する能力が高いため、「簡単な問題」「普通の問題」「難しい問題」と、難易度を分けて作成していけるように指導する。</li> <li>・ T2 は、A が 3 段階の難易度に分けて、問題文を作れない時には、お助けシートに書かれている、難易度の矢印を参考に、問題を作るよう、言葉掛けする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>B 身の回りにある物の特徴を書き出し、挙げた特徴を整理して、なぞなぞの問題文を書いている。 (思考・判断・表現) [ワークシート]</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>C 身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作っている。 (思考・判断・表現) [ワークシート]</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B と C が問題文を作れない時には、T2 は、問題文を作れるように、「これは何の仲間かな？」「見た目にはどんな特徴がある？」など、ヒント作りを促す言葉掛けを行う。</li> <li>・ T2 は、B の姿勢が前かがみになった時、言葉掛けし、入力しやすい姿勢を保ちながら、問題文を作れるようにする。</li> </ul>
-----------------	--	--

D 身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作っている。

(思考・判断・表現) [ワークシート]

- ・ T3は、Dが問題文を作れない時には、「これはどんな特徴があるのかを教えてください。」などの、ヒント作りを促す言葉をタブレット端末に入力する。

E 身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、問題文を作っている。

(思考・判断・表現) [ワークシート]

F 身の回りにある物の特徴を書き出し、その中から、どれを問題に使うのかを選び、助詞を正しく使って、問題文を作っている。

(思考・判断・表現) [ワークシート]

- ・ D, E, Fが問題文を作れない時には、T1は、問題文を作れるよう、「まず何から書く？」など、情報や書く順番が整理しやすいような言葉掛けを行う。
- ・ 具体物の見た目やいつ使うものなのかなど、今までの経験を振り返られるよう、言葉掛けを行う。

身の回りにある物の特徴を捉え、正しい文法でなぞなぞの問題文を作っている。

(思考・判断・表現) [ワークシート]

(2) グループ内で作った問題を解き合う。

- ①友達の問題を解く。
- ②感想をワークシートに書く。
- ③友達の感想を聞いて、問題文を修正する。

[問題]

- ①
  - ②
  - ③
- これなーんだ？**

[正解発表]

せいはいは…  
  
です!!

- ・ T1とT2は、タブレット端末のKeynoteのアプリを使い、グループ内で作って問題を共有する。
- ・ 解き終わったら、A・B・Eは問題文のどこが良かったのか、どこを改善した方が良いのかを、ワークシートに入力する。C・D・Fは、解けたら○、分からなかったら△をワークシートに入力する。

全 10	7 本時の振り返りを行う。 (1) 感想を発表する。 (2) 次時の内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1は、グループごとに、生徒を指名し、本時の感想を聞く。</li> <li>・ T1は、次回のなぞなぞ大会の予告を行う。</li> </ul>
	8 終わりのあいさつを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1は、終わりのあいさつをする生徒を指名する。</li> </ul>

【板書計画】

〇月〇日 〇曜日 天気〇 なぞなぞゲームをしよう 「大会で出題する問題を作ろう」 グループに分かれて問題を作ろう。	<b>今日の内容</b> ① 課題の確認 ② グループで話し合おう ③ なぞなぞを作ろう ④ 友達の問題を解いてみよう ⑤ ふりかえり グループで話し合おう	<b>【話し合いの約束】</b> ① 順番を決めてから話そう。 ② 友達の意見を、最後まで聞きましょう。 ③ 分からない時には、質問しましょう。 なぞなぞを作ろう	<b>【なぞなぞ作りのポイント】</b> ① 見たい目 ② 何の仲間 ③ 役割 ④ いつ（どこで）使うもの 友達の問題文を解いてみよう。 ふりかえり
--	--	---	--

【教室配置】



